

鹿ノ台川柳教室 四月度句会

四月十六日(月) 西集会所

席題 「年」 橘 正清 選

若いともふけているとも見える人 春代
 若過ぎて年相応に化粧する 幸男
 一年生夢詰めこんだランドセル アキラ
 年忘れ名前も忘れ家忘れ 乃り子
 数えない残り少ない年なれば ミノル
 年が明け考えることひとつだけ えいじ
 きっぱりと年を無視したお召し物 広子
 歳月や二人を同じ色にする 良一
 年輪が枯木にだって味を出す 勝利
 年男開き直りの七回目 義雄
 年寄りの火あそび危険命取り 登美
 ㊦ドキュメント年がいもなくほお染める 哲子
 ㊧地獄でも馬齢を重ねよもすがら 正清

宿題 「首」(連記) 林 勝利 選
 たてよこでえらい違いの首の振り ミノル
 キリンさん長くして待つ甲斐あった 充
 更迭に拘り首を否定する 乃り子

解雇する役目が終わり俺の番
 腕白の生命線は首ねっこ

たわむれが首までつかる習い事

うなだれる素振りお小言やり過ぎす

前イチロー今翔平に首ったけ

熱爛の首をつかんで離さない

断捨離できない思い出のネクタイ

切った首すぐに忘れる花鋏

えり足の白さまぶしい下駄の音

今宵こそタテに振らせる君の首

リストラに首から下の世話をする

善人の首の重さに肩がこる

㊦散り際は覚悟している花の首

㊧首賭けた程には見えぬ正念場

宿題 自由吟(共選)

奥村義雄 選

春さかり花にうもれてはいポーズ 春代
 スマホ歩き街は孤独な人ばかり 良一
 何もせず上手くなるコツ探してる えいじ
 自由とは得てして不自由人の性 乃り子
 無駄骨を折った量だけ箔がつく 勝利
 口裏を合せてバレたゴミ値引 よし尚
 順調に年をとってのもどかしさ 広子

幸男 哲子 登美 千楽 よし尚 えいじ アキラ よう子 春代 義雄 正清 広子 良一 勝利

角立たぬモノ言い出来ぬ古希にして
 国じゆうパツと明るく大谷君
 物言いがついて善意の立ち往生
 中古になった臓器次つぎ音を上げる
 お下がりの服で育って逞しい
 ストローに吸い込む弱いわだかまり
 たわい無い話の中にある本音
 ⑤ 微調整して大胆に船を出す
 ⑥ みんなして母の額に付けたしわ

千楽
 千楽
 アキラ
 よう子
 アキラ
 正清
 勝利
 正義雄

宿題 自由吟(共選) 笹倉良一選

待ちわびた春咲き急ぎ気も走る
 順調に年をとってるもどかしさ
 口裏を合せてバレたゴミ値引
 角立たぬモノ言い出来ぬ古希にして
 協会も有るよ出るよの不祥事や
 流行語決まりましたよそだねくに
 お下がりの服で育って逞しい
 中古になった臓器次つぎ音を上げる
 無駄骨を折った量だけ箔がつく
 タカが竹の子されど竹の子日本人
 善人の面の重さに偏頭痛
 親の趣味子も一端の虫博士

哲子
 広子
 よし尚
 千楽
 幸男
 幸男
 幸男
 アキラ
 よう子
 勝利
 乃り子
 広子
 春代

たわい無い話の中にある本音
 ストローに吸い込む弱いわだかまり
 ⑤ みんなして母の額に付けたしわ
 ⑥ スマホ歩き街は孤独な人ばかり

宿題 お題「太々しい」(互選)

② 八十の坂ふてぶてしくも生きてます
 美人だが太々しさが玉に瑕
 笑う山これが土産と二年ぶり
 ③ 反抗期ふてぶてしさが板に付き
 きょうも又タモリが仕切るNHK
 太々しくなった自分を認めてる
 何をがたがた昼寝の邪魔と財務相
 一線を越えているとかいないとか
 大胆に切って名声上げた医師
 ④ 新人の大胆不敵つつ走る
 ⑤ 横綱が負けて行司に文句つけ
 大臣の血筋ちらつく鉄面皮
 生え抜きをとんとん変える七光
 ⑥ 何食わぬ顔して正義振りかざす
 モリカケで誰も謝罪のない不思議
 ⑧ 良妻も開き直りの味しめる
 無口でもずぶとい言葉書いてくる

勝利
 正清
 正義雄
 良一
 よし尚
 正清
 充
 よし尚
 ミノル
 千楽
 乃り子
 義雄
 アキラ
 勝利
 よう子
 千楽
 広子
 良一
 勝利
 よし尚
 広子
 よう子

貰い手を早く探せと猫の腹

義雄

⑨ ぽんぽんと女の嘘が出る受話器

良一

鹿ノ台川柳教室 会員の新聞投句 掲載された句

(三月二十日～四月十五日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

三月二十九日 題「気まぐれ」

気まぐれに投げた小石が呼ぶ波紋

奥村 義雄

四月十二日 題「かたち」

負けるものかと花を咲かせたこぼれ種

奥村 義雄

毎日新聞 山田順啓選

三月二十九日 題「人形」

操り人形糸の長さにはばられる

澤山よう子

四月五日 題「迷路」

追い越したつもりが迷路とは知らず

林 勝利

迷路から抜け出す光ここはどこ

橘 正清

奈良新聞 居谷真理子選

三月二十一日 題「ちよつと」

ビデオ観て初めて分かる紙一重

播本 英二

エピソード吐かせる酒がちとたりぬ

澤山よう子

空気読み税務署ちよつと低姿勢

野々村アキラ

四分音符ちよつと見ぬ間に牛蛙

橘 正清

三月二十八日 題「騒ぐ」

横綱はこうあるべきと外野席

野々村アキラ

里山が騒がしくなる春の宵

橘 正清

催涙ガスいまだに夢に出る匂い

播本 英二

孤独感負けてなるかとよく騒ぐ

澤山よう子

胸騒ぎ期待なくして不安だけ

前田 幸男

四月四日 題「雲」

一直線の飛行機雲の先の夢

野々村アキラ

オーイ雲よ二ホンの未来見えるかい

五十嵐千楽

四月十一日 題「立つ」

腹立たぬ自分が少し情けなく

播本 英二

公園に立ちっぱなしの木のすごさ

橘 正清

奈良新聞 自由吟 大楠紀子選

四月十二日

老眼鏡外すと過去が甦る

澤山よう子

抜歯して目が釘付けの猪の牙
気が合わぬ自動扉のタイミング

橘 正清
前田 幸男

*右の通り、句会参加者、新聞各紙の投句でも活躍
快拳、難関の朝日新聞で、義雄さん直近5週で4週入選
*橘正清、林勝利、前田幸男 各氏は、短歌、俳句
でも各紙で活躍中

*新年度、我ら教室もにぎやかに。句会の進め方が
今月から面目を一新。アキラ・勝利コンビが担当し、
スイスイと。ほかに、幸男が作品を清書する一員に。
ニューフェイス・春代の好調は続き、席題「年」では。
「若いともふけているとも見える人」* 千楽

次回句会 五月二十一日、十二時三十分、西集会所

宿題は「ライバル」、「ついに」、「自由吟」。各二句

* 「ライバル」は連記 選者 乃り子

* 「自由吟」は共選 選者 良一 英二

* 席題 選者 正清 十二時三十分「お題」発表

出句× 宿題・席題」とも十三時

問合せ

原広子(79・0061) 野々村詮(090・6961・1292)